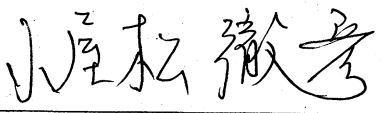


教育委員会会議録

令和5年（2023年）第6回臨時教育委員会会議

開 会 日	令和5年（2023年）7月31日（月）	
開 会 時 間	午前9時00分 ～ 12時15分	
開 会 場 所	教育センター 4階 大研修室	
出 席 者	委員会	遠藤洋路 教育長 出川聖尚子 委員 小屋松徹彦 委員 西山忠男 委員 澤栄美 委員
	事務局	田口清行 教育次長 須佐美徹 学校教育部長 他
議 事	議第68号 熊本市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	
協 議	令和6年度（2024年度）使用小学校教科用図書の採択について （地図・生活・図工・道徳）	
署 名		
		
会議録作成者	教育センター 廣瀬文子	

〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長 〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長 日程第1 協議	それでは、これより令和5年度第6回臨時教育委員会会議を開会いたします。 本日は、教育長・教育委員5人が出席しているので、この会議は成立しております。 会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員は、会議規則第14条第2項の規定により、小屋松 委員と澤 委員とします。 それでは、本日の会議の内容につきましては、7月26日(水)に行いました協議1「令和6年度使用小学校教科用図書の採択」の続きになりますが、追加で協議をお願いしたい案件が発生したため、案件を追加しております。当該案件は、議第68号 熊本市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正についてです。 また、本日の議事、議第68号 熊本市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正については、会議規則第13条第2号「教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する案件」の非公開事由に該当することから、非公開の審議が適当と思います。 議第68号につきまして、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。全員賛成により、議第68号は、非公開とします。
・協議1 令和6年度(2024年度)使用小学校教科用図書採択について(地図・生活・図工・道徳) 遠藤洋路 教育長 澤田伸一 事務局長 伊藤友子 選定委員長 中島沙知 研究記録員 伊藤友子 選定委員長 澤田伸一 事務局長 伊藤友子 選定委員長 遠藤洋路 教育長 西山忠男 委員	それでは、協議1「令和6年度使用小学校教科用図書の採択」について事務局より説明をお願いします。 協議1 について説明します。令和6年度から小学校で使用する教科書全13種目の採択をお願いします。本日は、そのうち「地図」「生活」「図工」「道徳」の4種目についてご協議をお願いします。 まずは、熊本市教科用図書選定委員長から報告をさせていただきます。 まず、「地図」の教科書の調査結果について、研究員の代表が説明します。 説明 次に教科書展示会の意見集約の結果を事務局が説明します。 説明 只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。 それでは、協議に入ります。委員の皆様からご意見・ご質問はありませんか。西山委員。 地図の作り方には二つの視点がありますよね。一つは自然地理学的な視

	点、もう一つは人文地理学的な視点ですね。自然地理学的な視点というのは、地形に重点を置いた地理学ということになりますし、人文地理学的な視点というのは、土地利用の記述ということになって、両者は多少違いが見られると思います。これは東京書籍の付箋の のところ、九州地方ですね。同じく帝国の のところを見比べると、帝国のほうは、地形による色分けの上に重ねて土地利用の色分けをしてあるという特徴があります。一方、東京書籍は付箋 のところは、土地利用の色分けはせずに地形だけで色分けしているようでございます。1 頁めくりますと、九州北部が出てくるのですが、これも帝国書院のほうは地形による色分けに加えて、土地利用による色分けをしています。これは多少無理がどうしても出てきますよね。ですから、金峰山のところが山なのに、ピンクに塗られていて、果樹園のほう強調されて描かれている結果になっています。一方、東京書籍のほうは完全に土地利用で色分けしてあるために、地形がこの地図では非常に読みづらいと、高度が読みづらいという結果になっていると思います。私はどちらかという、自然地理学的な視点を重視したいと思っていますので、地形の高度差が非常にきれいに読み取れる帝国書院のほうを評価したいと思っています。以上です。
遠藤洋路 教育長	他にご意見はありますか。
小屋松徹彦 委員	まず一つは地図のでき方、8 頁です。東京書籍のほうは、地上から見た町の様子から斜め、そして真上、最後に真上から見た町から地図を作るという 4 段階に分けてあるのに対して、帝国のほうは、最後の地図を作るという部分が描いてなかったんです。この点を比較しますと、私としては、真上から見た町の様子から地図を作るところまで描いてあったほうが、地図のでき方としては分かりやすいかなというふうに思いました。それが一点。それから、もう一点は、先ほどの九州地図の部分ですけど、20 頁、それから帝国のほう 36 頁、ここで私が注目したのは QR コードでした。QR コードを見てみましたところ、帝国のほうは QR コードで入っていきますと、それぞれの九州の各県のいろんな要素が詳細に記載されておりまして、そこら辺がちょっと東書のほうと QR コードの内容が違ってまして、帝国のほうの方が分かりやすいかなというふうに思います。 もう一点は、見開きの地図ですけど、帝国書院のほうは、世界地図に国名が書いてあると思いますが、これをよく見ますと、後ろのほうに全体の国の世界地図がまた表示されておりまして、そこでは全ての国が記してありました。これは前に空白の国名をつくっている理由が何かあったのかなというふうに思いましたので、もしそこが分かれば教えていただきたいなと思います。以上です。
遠藤洋路 教育長	いかがでしょうか。
古市直樹 研究員代表	確かに帝国のほうは、まず見せる世界地図には子供たちの身近なもの、子供たちの関心がより近いであろうという国をあげてあります。これは研究会では、やはり 3 年生から地図帳を開けますので、地図に対する取り組みやすさ、導入しやすさ、それでハードルを下げてこうしているんじゃないかなという話をしました。ただ、現在はいろんな国にルーツをもつお子さんが各学校にいますので、もしそういうお子さんが担当学年にいるの

遠藤洋路 教育長	であれば、例えば帝国の地図を使うのであれば、最初の見開きのほうから使わずに、先ほどの話があった巻末のほうの世界地図を使うというような配慮も必要だと考えております。以上です。 この件はおっしゃるとおりです。載っていない点は私も非常に問題かなと思ってしまして、例えば、ロシアは載っていますが、ウクライナは載っていない。インドは載っていますが、ネパールとかスーダンには載っていないということで、やっぱりクラスに載っていないほうの国の出身の人がいれば、そこは非常に嫌な気持ちになるというか、評価されていないんだとか、やっぱりそういう気持ちになると思いますし、この帝国書院だったら世界の中には大事な国とそうじゃない国があるんだという、そういう価値観で作られているように私は非常に感じます。なぜかという、もう一点、帝国書院に同じ問題があって、東京書籍のほうは、世界地図のほうを見ると、全体があった上にユーラシアがあって、アジア、アフリカ、南北アメリカ、ヨーロッパがあって、南北アメリカがあって、オセアニアが続く。帝国書院のほうは、同じように南北アメリカまでいった後に、オセアニアがなくてアメリカ合衆国の詳しい地図が出ているんです。オセアニアの国々は、例えば93、94頁ですね。東京書籍でいうと65、66頁ですよ。この地図はないので、最後の裏表紙の前の見開きに全部出ていますよといえ、それは全部出ているんですけど、やっぱり取り上げ方が地域や国によって非常に重い国と軽い国があるのが帝国書院の地図の特色、私はこれは非常に問題だというふうに思っています。東京書籍は全部の地域や国を同じように取り扱うという方針になっていると思いますので、その点は、私は東京書籍のほうが非常に公平な作りになっているのではないかなというふうに思ったところです。今の点以外で結構ですけど、他の委員からご意見がありましたら、お願いします。
澤栄美 委員	意見ではないです。お尋ねです。帝国書院のほうが対話的な学びになるのではということで、その根拠は何だったのかなということの一つお伺いしたいのと、それから、両方、ユニバーサルデザインに配慮したというのが説明の中であったんですけど、どの点がユニバーサルデザインに配慮したということなのかというのを、具体的にそこも教えていただきたいと思っています。
遠藤洋路 教育長	研究員から、いかがでしょうか。
古市直樹 研究員代表	画面は帝国書院の二次元コードから入っていったところを示しておりますが、先ほどもちょっとプレゼンのほうで触れたんですけど、一つ例をご紹介します。各都道府県の地図です。もちろん地図というのはたくさんの情報を網羅するのが地図であるんですけど、3年生から6年生までの小学生が使うという点、あとは一人一人の発達段階から考えた場合に、やはりたくさんの情報が引っかけられて子供たちができる、分かるという意欲が減ってしまって、なかなか対話に結びつきにくいという課題があります。この前を見てもらうと、例えば、これは地形の様子だけの情報を載せた熊本県の地図、これは市町村ですね。あと交通の様子もありますかね。こうやって、それぞれで絞った情報を提示する地図があるということで、もちろん最終的には、先ほども言いましたように、多くの情報が載っている地図が

遠藤洋路 教育長	ら自分に必要な情報を取り出して、そして学ぶという力をつけさせていくのが目的なんですが、3年生からやるという発達段階を考えると、こういうふうに情報を制限したというか、絞ったという地図を提示することで、子供たちも、より対話、話合いをしやすくなるんじゃないかなと考えました。
澤栄美 委員	澤委員、よろしかったですか。 指導する段階において、全体的な部分、ぱっと見えている部分も、消してある部分だったり強調してある部分だったりがあることで、子供たちの学習の進行というか、内容というか、そういったことの中で対話につながる工夫だというふうに思われたということですね。分かりました。
古市直樹 研究員代表	もう一点、ユニバーサルデザインについてですが、やはりこれも、いろいろなお子さんが学校の中にはいますので、例えば色覚特性に配慮した色使いであったりとか、鮮明な彩色であったり、色調であったり、あと縁取りを入れたりしてありました。あとは果樹園とかの地図記号の絵がありましたけど、あれも文様図という、背景を少しドットというんですか、そういう感じで少し見やすくなるという、そういう工夫が両社とも、これは両社ともですけど、随所に見られました。
出川聖尚子 委員	先ほどからちょっと話が出ていた帝国書院のほうは表紙の1頁目に限られた国名しか入っていないというのが私も少し気になりました。そして、5頁、6頁の見開きは国が出ていて、それについては、後ろのほうには載っていますが、県庁所在地というの、東京書籍のほうには最初のほうに載っていて、帝国書院のほうは後ろのほうに載っているというところで、それが全体に載っているのはどこにあるのかなというのを私も探しました。スタートに合わせて工夫されているというふうに、今、お話があったかと思いますが、何かちょっと探したりしないといけないというふうに思いました。ただ、帝国書院のほうは非常に字も大きくて、スタートの子供たちが学ぶ「地図の世界へようこそ」というところなど、あるいは後ろのほうにある地球儀で国とかを調べていくところが82頁とかにもありましたけど、そういったところも詳しく学び方が書いてあって、そういう点は非常にいいなというふうに思いました。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。他にご意見ありますか。じゃ、私からも、あと二点ほど申し上げたいと思います。まず、地図の構成として最初から順番にめくっていくと、日本地図、帝国書院のほうは21頁からになるんですけど、九州、沖縄からなんですよ。東京書籍のほうは15、16頁です。日本全体の図から始まって、その次も日本の全体の図があって、その後、九州から始まっていくんですが、私は東京書籍の全体をまず見渡した上でそれぞれの地方の地図が載っているというほうが全体図が分かっていいのかなというふうに思ったところです。一方、帝国書院のほうは、21頁からの地図が広く見渡す地図となっているんですけど、21頁から30頁ですか。これがあって、また33頁から九州、沖縄から順番に始まるので、何となく重複感がある感じで、21頁から30頁の地図って本当に要るのかなというのが率直な気持ちではあります。それと、最初のところにありましたさっきの熊本の、やっぱり熊本だけ見れば東京書籍のほうが見やすいかなと。熊本

	の見方だけで決めるのはどうかと思いますが、やっぱり金峰山が山にちゃんと書いてあるとか、例えば23、24頁のところでも熊本市の中で載っているスポットが、帝国書院のほうはえがお健康スタジアムと肥後国分寺跡だけなんですけど、東京書籍のほうは水前寺成趣園とか布田川断層帯とか、何となく東京書籍のほうが、より重要というか、身近に日頃なじみのあるものが載っているような気がしますし、何となく、これは好みの問題ですけど、私は東京書籍のチョイスのほうが、半導体も載っていますし、いいのかなというふうに。帝国書院も電子部品とは書いてあるけど、工場も形しか載っていませんけど、何の電子部品なんかもよく分からないなというところもあります。もう一点、ちょっとどうしても気になるのがあって、帝国書院、ちょっとこれを伺いたいんですけど、最初の7頁ですか、「地図の世界へようこそ」というところです。斜め上から見た学校の周りの様子ということで、町の様子が描いてあるんです。真ん中に学校があって、学校とか市役所とか商店とか病院とか消防署とか、全部同じワンブロックに同じ大きさで入っているんですけど、学校と商店と消防署が同じ大きさを地図としてどうなのと。警察署もそうなんですけど、いきなり導入で、これで距離感というか大きさの感覚って何か大丈夫なのかなという気が私はしたんですけど、その辺、研究員のほうで何かありませんか。
古市直樹 研究員代表	今、おっしゃったように、確かに今後子供たちに付けたい力とかサイズ感ですね、いわゆるそういう面では、その帝国の一番最初のはご指摘のとおり、小学校と他の建物とかが同じようになっているし、もっと極端なことを言うと、人の身長と建物とかの縮尺があらっと思うんですけど、研究員のほうでは、やはり地図の活用というのが課題の一つでもありまして。なかなか地図が子供たちが理解しにくい、取っつきにくいということで、しっかり地図の成り立ち、地図の構成というものを、どうしてもページを割いて巻頭のほうに持ってきてあるわけです。そういう点で研究員のほうでは縮尺とかなんとかは、ここでは第一義的に考えないで、まず地図の成り立ちということで斜めから見て、子供たちに分かりやすいようにブロックに絞ってやっていくという判断をしました。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。人の大きさという意味では、東京書籍も人が飛んでいたり、学校を見つけたよとかもっと極端ですから、それもどうなのかなというふうには思いますけど、まあどっちもどっちですね、とは思います。そこは縮尺というよりは、地図をどうやって見ればいいのかというそれを示しているということですね。分かりました。私が気になったのは、そのぐらいです。 では、他の委員さんから特になければ、地図については以上にしたいと思います。ありがとうございます。
伊藤友子 選定委員長	続きまして、「生活」の教科書の調査結果について、研究員代表が説明いたします。
井上清佳 研究記録員	説明
伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果を事務局が説明します。

澤田伸一 事務局長	説明
伊藤友子 選定委員長	只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
遠藤洋路 教育長	それでは、協議に入ります。ご意見・ご質問はありませんか。
西山忠男 委員	私は理科の教材を中心に拝見しましたが、理科の教材という観点からすると、東書と光村と啓林館が優れていると思いました。 私、一番推したいのは東書です。その理由は、121ページのいきものずかん、上ですね。全て上で話をさせていただきます。上の121ページ、いきものずかん、ここに描かれている植物のスケッチが非常にすばらしくて、ほとんど感動的です。こういうすばらしいスケッチを子供たちに見せるというのはとても大事なことだと思いますので、東書を推したいと思います。例えば、比較のため、教育出版の上の50ページをご覧いただきたいんですが、ここにはらずかんとありますが、ここのスケッチと、特に植物のスケッチと比べていただくと、いかに東書のスケッチが優れているかというのが分かると思います。そういう意味では東書を推したいんですが、光村も、光村の上の巻末のほう110ページ辺りから図鑑がカラーで、これは写真です。写真ですけど、非常にきれいに撮ってあって、子供たちの関心・興味を引くのによいかなというふうに思います。 啓林館のほうは、中にとじ込んであるので、春の図鑑、夏の図鑑といっぺんに示していないけど、充実していると思います。ただし、質の高さからいって東書が1番、光村2番、啓林館3番という印象を受けました。 以上です。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。他の委員からいかがでしょうか。 じゃ、まず私のほうからいいですかね。 西山委員がおっしゃった教科書、それぞれ私もいいなと思いました。 光村について私も結構いいところもあるなと思って。特に上の表紙からもう探検が始まっていて、その後も学校探検とかもダイナミックな感じで、とてもいいなというふうに思うところはあるんですけど、どうも、字がポップでかわいいんですけど、読みにくくて、小学校1年生でちゃんとしたひらがなとかを習っていないというか、覚えていない段階で、この漫画の字であったり、あるいは手書きの字であったり、手書き風のフォントだったりというのは何か非常に読みにくいなというふうに思います。 例えば、光村の上でいえば、76とか77とか、にこにこ大きくせんと書いてあるんですけど、どうも「に」と「こ」という、とても大人でも読みにくいので、子供に読めるのかなというか、小学校1年生に読めるのかなという。このように字を覚えてしまったら、それはそれでどうなのかなというふうに思いましたので、小学校1年生の段階では、どちらかという、あまり崩した字じゃなくて、読みやすい字を使ったほうがいいのかというふうに思ったところです。 それから、教育出版もいいんですけど、教育出版、さっき研究員のほうから、何と言うんでしょう、私、ちょっと名前が分からないけど、黒いキャラクター的なやつですね。これ、結構評価する意見があったんですけど、私にはどうも意味不明で邪魔なんですよ、この黒いやつが。何かページにちゃ

伊津野留美 研究員代表	かちゃか出てくるんだけど、一体何の意味があるのかよく分からんという。特に、表紙の後の見開きの部分は何がしたいのか分からないし、はっけんロードというのも、先ほど、例えば上の5頁からずっとつながっていますというような話をしていましたけど、上じゃないか、下、どちらでもいい。下でいうと5頁なんですね。上でいったら11頁からですか、つながっていて、これをずっと見ていっても、何かよく分からん。果たしてこれをたどっていく意味があるのかなというふうに思いますし、上でいうと21頁までずっとたどっていったら、全然上の中身が入ってこないんですよね、なかなか。最後までたどって行って、はしごを上っていくときに、顔がついているからとても振り返りにいいというご意見だったんですけど、この顔がどうして振り返りによくて、それで になるのかちょっと私にはよく分からなかったんで、その部分は研究員にご説明いただいてもいいですか。
伊津野留美 研究員代表	この黒いキャラクターというのは、いぐらというキャラクターでありまして、「コンガラガッチ」というNHKのテレビのものなんだそうです。上巻の表紙、何をやっているのか分からないというところもありましたけど、上の場合は、素材そのものを見て試行錯誤、これなんだろうというところを考える。それから、下の場合は、それを分析的に見ていくような表紙の仕組みにはなっているなというふうには思いました。 研究員のメンバーからも、これ、何というのは、最初の素朴な疑問でもありました。しかし、どうにか学びの見通しを持たせるところで、この道をたどっていくと学習ができるんだというところは、よくじっくりと見ていくと、そういうのが分かるかなという私たちの見解でもありました。 それから、自己評価を促すというところが低学年の子供には難しいとは言われますけど、こうやって自己評価をしていくというところを積み重ねていく上では、基礎的にこういう場面もあってはいいのではないかということで、評価をいたしました。
遠藤洋路 教育長	21頁のぐんぐんはしごというのがあって、それを上っていくときに、最初は何か不機嫌そうな顔をしているのが、普通の顔になって、笑顔になっている顔が3つ描いてあるんですけど、これは、どうして自己評価をしながら振り返ることができるよう例えば工夫されているという評価になるのかが分からなかったんで、それを教えていただけますか。
伊津野留美 研究員代表	これは、自分がこの学習でどのレベル、どの段階にいるのかというところで自己評価をできるんじゃないかと思います。あまり面白くなかったか、結局、この吹き出しみたいなのが、21頁でいいますと、学校にお気に入りの場所や人を見つけたかなというところがめあてでございます。それに対して、見つかったという人はここにこマークの上のほうに、それから、あまりという場合は下のほうでとどまるというところで、子供たちにこれを鉛筆で丸をさせて、その理由はどうしてかなということも尋ねながら学習を振り返るという、もっとどうやってやればよかったのかなというところで子供たちと話をするというようなことで、振り返りができるのではないかと考えました。
遠藤洋路 教育長	分かりました。それぞれの子供が自分がどこだったというのを丸をつけるのに使えと、そういうことですね。私としては、そこをそんなに評価す

澤栄美 委員	るのかなという疑問はありますけど、言っている意味は分かりました。ありがとうございます。 他の委員も何かありますか。 子供たちが1、2年生に入ってきて、将来、社会とか理科になるようなところで興味をもつ教科書としてそれぞれ工夫がしてあると思ったんですけど、GIGA スクール構想で1人1台のiPad というところは初めての体験ということ考えたときに、やっぱり公教材の使い方ということが扱ってあったのが、東書の119頁にこんなふうにして拡大してみたりするというようなものだったり、あるいは教育出版の場合でいうと、128頁、そこにあるような道具のところについて、やはりタブレットが主になりますけど、タブレットがなかった頃からすると、いろんなものを、絵にもありますように例えば教育出版のほうで今開いていますのでいうと、ただ絵を何となく描いていた時代からいうと、アサガオの葉っぱのところがふさふさしていることがこんなふうに見えるんだというような、いろんな細かいところとかも分かるようになってきたんですね。だから、これが教科書の中になくても、そういった使い方を知ることによっていろんなことが探究できていくのかなとは思いますが、この2つの教科書がそういったことをきちっと扱ってあるといったところは推奨すべきところかなと思って見ました。 それと、一つ気になったところとして、光村は のところも多いんですけど、上の28頁の「田中さんはものを直す名人です」と、これはおそらく主事の先生のことだと思うんです。東京あたりでは用務員さんというふうな呼び方をしていますが、熊本市の場合は、学校にいらっしゃる職員の方を全て「先生」と呼ぶように指導してきていると思うので、これを使った場合に、ここをどのように説明するのかというところが、ちょっと気になる場所でした。 以上です。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。他の委員の方から、何かありますか。
小屋松徹彦 委員	私は上巻の花を育てるところを中心に、各社比べてみたんですけど、その特徴的なところでいきますと、まず、タイトルの決め方が「わたしのはなをそだてよう」とか、「わたしのあさがお」とか、主語がほとんど入っていましたが、東書だけが「はなをさかせよう」ということで、主語がなかったなというのがちょっと印象に残りました。できれば、「わたしの」とついたほうが主体的に取り組んでいくということにはつながるかなと、自分ごとになるかなということで、目に留まりました。 それから、今度は育てる過程なんですけど、これを見ながら、これ、丁寧に書いてあるなと思ったのは、啓林館と東京書籍と教育出版。ここは写真なんですけど、種から、それから芽、そしてつぼみ、最後に種、この段階をずっと丁寧に写真つきで書いてありましたので、これは非常に分かりやすいなと思いました。 あとは、深い学びという点でいきますと、啓林館の「わくわくタイム」、最後に「どんなはなをそだてたいかな」というようなことが書いてあったり、最後に「たねのふしぎ」ということで、びっくりずかんというんですか、そこに書かれていたり、それはやっぱりいいなと思いました。 それから、教育出版のほうも、わくわくスイッチで主体的に取り組みや

遠藤洋路 教育長	すいという感じがいたしました。 以上です。 他にいかがでしょうか。
出川聖尚子 委員	今、ご説明いただいた学校探検のところで、例えば、教育出版は「がっこうたんけんをしよう」といって、すぐに12、13頁に校長室とか保健室とか給食室とかが書いてあって、同じように、東京書籍とかも「がっこうをたんけんしよう」といって、すぐ右側には音楽室とか、校庭とか、学校図書館とか書いてあるのが大変気になって。自分たちで主体的に見つけてということに結びつくのかなというふうにちょっと思ったところでした。むしろ大日本図書とかのほうが、「がっこうたんけんにしゅっぱつだ」といって、24、25とかに写真だけあって、具体的にはどこというのが書かれていないというのがいいのか、それとも、そういうふうな、さっき言った東京書籍や教育出版のように、右側のほうに既にあるものについて書いてあるほうがいいのか、少しそこが私は判断しかねるんですが、教えていただければと思います。
遠藤洋路 教育長	研究員からいかがでしょうか。
伊津野留美 研究員代表	例えば、大日本でありますと、いろんなものが、同じものが学校の中にあるかなというところで、投げかけをすることができますし、子供たちが学校に行きまして、初日、2日目はあまり学校の中を探検することはないんですけど、3日目、4日目となりますと、結構いろんなところへ上級生と一緒に探検したりというようなことがあったりしますので、写真があれば、何か見たものがあったよというようなことで、どちらも引き出しやすさはあるかなというのがあります。
出川聖尚子 委員	名前がすぐ載っていたりすると、何か発見とかそういうふうにはなりにくいのかなと思ったんですけど、うろうろしていて名前は知っているの、その中のことを詳しく知るみたいなふうに次はなっていくということなんでしょうかね。
遠藤洋路 教育長	他にありますか。よろしいですか。 啓林館は評価が高かった中で、サイズが小さいというか、大きさが他より小さいですけど、それについては、何か大きさについて意見はあったんでしょうか、研究員の中で。
伊津野留美 研究員代表	特段問題はありませんでした。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 啓林館はいいんだけど、ちょっとサイズが小さいので、ページがごちゃごちゃしているというか、見やすさでいうと、ちょっと版が大きいほうがいいのかというのが個人的な感想でありましたけど、その辺、特に意見はなかったんですね。分かりました。 他にご意見はありませんか。ないようですので、以上で「生活」について終了いたします。

伊藤友子 選定委員長	続きまして、「図工」の教科書の調査結果について、研究員代表が説明いたします。
山本清 研究記録員	説明
伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果を事務局が説明します。
澤田伸一 事務局長	説明
伊藤友子 選定委員長	只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
遠藤洋路 教育長	まず、最初に伺いたいんです。一番最初の発表のときに、本市の児童の状況ということで、学年が上がると、どんどん図工が嫌いになっていくみたいな発表があったところなんですけど、これについて非常に問題だろうと思うんですよね。その理由をもう少し詳しく教えていただけますか。
中島尚子 研究員代表	研究員でも、そのことが非常に話題になりまして、一つは学年が上がるにつれて子供たちが何か上手にうまく描かなければいけないとか、作らなければいけないとかという意識が強くなってくるのであろうという意見が出ました。 それと同時に、自分のことがよく見える発達とともにそんなふうな力もついてくるので、自己を肯定する自己肯定感がやや低くなってくるのではないかということも考えられます。
遠藤洋路 教育長	それは、つまり子供たちがそうなるということは、指導する側に問題があるんじゃないかと思うんですけど、それについてはいかがでしょうか。
中島尚子 研究員代表	そもそも図画工作というのは、一人一人の自由な発想、枠にとらわれない発想を生かしながら自己を表現するものです。ですので、指導者は一人一人のそういった発想を大切にしながら、認めながら伸び伸びと表現できるように指導する、こういった指導の改善の課題がここにあると思います。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。私もある学校を見に行ったときに、教室の後ろに運動会の絵が描いてあって、全員同じ構図で、全員同じ色で、同じ絵が飾ってあって、本当にこんな指導をしていたらどうしようもないなと思った覚えがあります。 そういう意味で、図工を嫌いにさせちゃっている先生たちが推す教科書というものを本当に選ぶことがいいのかなという率直な思いがあって、正直、少し変えるほうがいいんじゃないのかという気持ちが強くあります。それは私の気持ちです。 あと、全然関係ないですけど、前回、オンラインで中継を見ている方から、教育長はスライドが後ろにあってスライドを見られなくて大変ですねと言われたんですけど、ちゃんと前にもスライドがありますので、ご安心ください。後ろにも目がついているんですと言おうかと思いましたが、そんなことないです。それは、オンラインで見ている方、大丈夫ですよ。す

西山忠男 委員	みません、冗談でしたけど。 では、教科書について、各委員からご意見がありましたら、お願いします。 教育長がご指摘になられたように、音楽もそうですが、こういう図画工作も教科書が何というよりは、やはり指導者の力量が大事なんですよね。指導者の力量によっても教育効果は全然変わりますので、やはり指導者が自ら研さんを積んで、自分の力量を高めていく努力をしていただきたいというのが基本だと思います。 教科書はあくまで補助的なものと、この場合、私は考えていますけど、それで、じゃ、どちらを選ぶかという話ですが、ご説明にありましたように、表現と鑑賞の一体化という点ではやはり開隆堂が優れているなと思いました。ご指摘の水墨画のところがそうですが、5、6年生の下の開隆堂でいいますと、38から39にある水墨画のすばらしい絵。それに比べて文教出版の同じく5、6年下の18、19頁には、あまり鑑賞に値するような立派な水墨画が載っていないんですよね。これがちょっと大きな違いではないかなと思います。 同じく、鑑賞のところでも、日本文教の24、25頁、5、6年の24、25ですね。それから、開隆堂のほうは30から31頁になりますけど、開隆堂のほうは浮世絵とそれに影響を受けたゴッガンの絵が対してある。次のページには、ルノワールの絵と、それに影響を受けた黒田清輝の絵が対してあるというような見方で、西洋と日本のお互いの影響のし合いというか、そういうのがよく分かるようになっていますが、開隆堂のほうはその辺ちょっと、どういう観点でゴッホとかモネの絵が選ばれたのかよく分からないという点がございます。そういう意味では、やはり私は開隆堂のほうがいいかなと思いました。 以上です。
遠藤洋路 教育長	他にご意見ありますか。
小屋松徹彦 委員	3、4年生のところで説明がありました目次なんですけど、確かに両方とも非常に分かりやすくて詳しく書いてあるなと思いましたけど、日文のはちょっと字が小さいなと思いました。もうちょっと大きい字で書いていただきたかったなというのは感想です。 もう一つは、これは質問です。特にこの図画工作もそうでしょうけど、鑑賞ということで、結構QRコードの果たす役割というのは大きいかなと思うんですが、授業の中でこのQRコードの使い方というのは、どういうふうにされているのか、お願いしたいと思います。
遠藤洋路 教育長	研究員、お願いします。
中島尚子 研究員代表	図画工作の場合は、まず授業の初めに、子供たちが描きたいな、作りたいなと意欲が湧くような導入の工夫をします。そういったときに、参考作品が欲しいと指導者は思います。校内の参考作品もあれば、校外もあるでしょう。しかし、このように教科書のQRコードを使ってたくさんの参考作品が見れるというのは一つの大きな魅力で、導入で非常に有効に使えるというふうに考えます。

小屋松徹彦 委員	ということは、それぞれの単元で最初に QR コードが載っているかと思いますが、そこから導入していくという感じなんではないでしょうか。
中島尚子 研究員代表	その題材題材によって、指導者によって導入方法はいろいろあると思います。必ずしも QR コードの中の参考作品ではないかもしれませんが。両社とも、この QR コードの参考作品とか、あるいは開隆堂のタブレットで「はじめに」というようなキャラクターの動画とか、そういったものは今後大いに授業の導入に使えるというふうに思います。
山本清 研究記録員	すみません、補足です。このたび QR コードの中のコンテンツにつきまして、開隆堂は、今、代表が話されている導入で使える「はじめに」という動画、そして道具などの使い方の動画、そして参考作品、そして振り返りシートなどが掲載されています。日本文教出版は、道具の使い方及び参考作品が掲載されています。授業の中では導入において、開隆堂の「はじめに」という動画はとても興味・関心を高める上で有効なコンテンツだと考えます。授業の中では、子供たちが必要に応じて道具の使い方などを確認する必要があると思いますが、その際は両社と QR コードのコンテンツがとても有効です。そして、参考作品につきましても、子供が授業の途中で進め方に困ったときに自分で確かめるときに使用しますが、その際にも、両社とも十分なだけの参考作品を掲載されていると考えております。
遠藤洋路 教育長	他にどうでしょうか。 どうぞ。
小屋松徹彦 委員	じゃあ、生徒が参考にしたい作品を見たいときというのは、QR コードがどこにあるということは、どうやって分かるのでしょうか。
遠藤洋路 教育長	いかがでしょうか。
中島尚子 研究員代表	両社とも全ての題材のページに QR コードが載っていますので、子供はここから活用ができます。
小屋松徹彦 委員	じゃあ、このページごと、単元ごとに載っているのを参照するということですね。
中島尚子 研究員代表	はい、そうです。
遠藤洋路 教育長	小屋松委員、よろしいですか。 では、澤委員、どうぞ。
澤栄美 委員	私はもう説明にありましたし、西山委員も触れられましたけど、開隆堂の水墨画のところの扱いとか、指導の内容が印象に残りました。説明でも、鑑賞を先にやって、描くのをやってもいいと言われましたけど、図画工作の場合は、鑑賞はものすごく大事だと思うんですね。そこから学ぶものがあって、そしてヒントを得て自分たちもこういうふうになってみたいとか、そういったことを考えると、コンテンツの数が断然日本文教出版のほ

	うが多いんですけど、多いからいいのか、少ないとよくないのかというのは、どんなふうに考えられたのかなと思うんです。 というのは、さっき言われたように、私も高学年になると、どうしても思春期に入って、人と比べるとか、その中での自分はどうか、人から見てどうなのかとか、そっちのほうの意識が高くなってくるので、どうしても人との比較の中で自分の作品を見てしまうというところが出てきて、自信をなくしていくというのがあるのかなと思ったときに、たくさん見たほうがいいのか、それとも、そんなに数はなくても、その中で、指導の中で子供が意欲をもつように指導をしたほうがいいのか、どちらだと思われるかなというのを一つお聞きしたいと思いました。 その一つとして、開隆堂のほうの63頁の「タブレットたんまつを使おう」というのがあって、日本文教出版のほうは同じようにタブレットのことは載っているんですけど、使い方が載っているので、65頁にこのように使うといいよという感じなんです。あくまでやっぱり開隆堂は岡山の大原美術館の中とかを見れるようにしているとか、やっぱり鑑賞にそれは特化してあるなと思うので、コンテンツ数と子供たちの魅力ということで、どういうふうに考えているのかなというところを教えていただきたいと思います。
遠藤洋路 教育長	お願いします。
中島尚子 研究員代表	コンテンツ、それから参考作品の数では、圧倒的に日文さんの、この数は非常に魅力です。 多いからいいという部分と、それから少ないからいいという部分の話をすると、このたくさんの参考作品、たくさんのアートに触れるということ子供の体験は子供の表現に生かされるという意味では、数は力です。 しかし、少ないからといってマイナスではない。というのは、開隆堂さんは、日文さんに比べると数は少ないんですけど、限定することで子供が迷わないようになっているなと考えました。例えば、たくさんの中から選ぶとするとき、なかなか決められない、理解に時間がかかる子供、配慮するような子供にとっては、ある数、少ない数を限定して提示するほうが子供は学びやすい。こういうのは、数の少なさの利点だなと考えます。 だから、多いからいい、少ないからいいという部分と、多くても有効に使えない、それから、少ないから有効ではないという部分と両方あると思います。 そして、デジタルコンテンツ、タブレットを使ってこの教科書以外の作品にたくさん触れられるように両社とも考えられている。そこが新しい時代の教科書のすてきさを感じました。 以上です。
遠藤洋路 教育長	はい、ありがとうございます。
出川聖尚子 委員	私は、この授業が終わって自分で何か作りたいな、もう一回やりたいなというふうに子供が思ったときに、材料と用具の引き出しというところの充実度合いからすると、私はこちらの日本文教出版のほうが、子供がもう一回やってみたいなとか、学校で学んだだけじゃなくて、例えば5年生、6年生の上の64頁に貼り付けるとか接着剤を使い分けるときに、どうしても

遠藤洋路 教育長	のがいいというふうに書いてあったりする、何かそういう自分がさらに主体的に学ぶといったときに、より丁寧なような気がしています。感想です。 ありがとうございます。 他にありますか。
小屋松徹彦 委員	3年、4年の上、先ほどの「トントンくぎ打ち」のところを比較しました。確かにくぎを打ちますけど、その後のくぎを抜くという作業までが恐らく片づけじゃないかと思って、その部分の記載はどうなんだろうと思って見たところ、開隆堂さんのほうは、一応写真つきでその後はくぎを抜いておくというのがありますが、日文さんのほうはなかったということで、QRコードに入ってみましたら、くぎ抜きの仕方というのが動画で載っていて、開隆堂さんもQRコードに入っていくと、やっぱり同じように動画が載っているということでした。 できれば、最初の教科書のほうに片づけ、くぎ抜きの部分というのは写真として載ったほうがいいかなと感じたのが一つと、それと、日文さんの作品の中でカメラマンというのがありますけど、くぎをまとめてとんとんと打って、こういったくぎの打ち方ってどうなんだろうと私は思って、題材としては何かあまりこういう題材を載せて、くぎの打ち方を覚えていくのはいかなものかなというふうに感じました。 以上です。
遠藤洋路 教育長	他に何かありますか。 図工といっても、工作ではなくて美術の作品としてくぎを使っているのであれば、こういう打ち方も別にいいのかなというふうには思いましたけどね、それは。 他には。
西山忠男 委員	くぎ打ちのところでは、確かに開隆堂さんのほうはパチンコみたいにちょっと違和感があったんですが、日文さんのほうが現実としてのくぎ打ち作品という意味ではいいんじゃないかなという感じはしました。ちょっと引っかけたんですが。 それから、日文さんのいいところも言っておかないといけないと思うんですが、勉強会では話題に出たんですけど、土の色の24頁ですね。これは、3、4年上の24頁に土の色のすばらしいサンプルが載っていますけど、土の色でもこれだけのバリエーションがあるんだと示しているのは、非常にいいところだなと思います。 ただ、熊本では、市内でほとんど灰色の土しか手に入らないので、天草まで行けば白い土が手に入りますけど、ちょっと授業への応用という意味では難しいのかなと思います。 以上です。
中島尚子 研究員代表	この日本文教出版さんの土のグラデーションですね。実は研究員の話合いの中で全員が感動したページです。 自然の色に目をつけさせる。これは土だけじゃなくて、植物とか、あるいは1、2年生の教科書にある「図工のみかた」というページがあります。たくさんの虫とか自然界のいろんな色や形に目を向けています。目をつけさ

遠藤洋路 教育長	せる仕掛けが感じられました。子供が生活の中で見たり、それから触れたりする、そんな中から色や形を意識して、発見して自分の表現に生かす。こういう会社の非常に力を入れたところが伝わったところでした。 以上です。 ありがとうございました。 その土の色は、私もすごくこれはいいなと思ひまして、まさに今、西山委員がおっしゃったように、土は灰色だと思っている、あるいは茶色だと思っている子供さんに見せて、こんなに土にも色があるんだということを知るといことは、固定観念というか、今までの思い込みを変えていく意味でも非常に意義があるんだろうなというふうに思っています。自然の中には、例えば葉っぱでも同じ緑だと思った緑に、いろんな緑があった、そういうところは大事にしていかなきゃいけないところだなというふうに思います。 それから、日本文教出版は、このページもまさに象徴ですけど、色に対する比べるというか、センスは非常に考えられていて、これ一遍全部の教科書の全部のページを見ていくと、日本文教出版は、実はページの色は白じゃないんです。象徴的なのは、一番最後、裏表紙から1ページめくってもらったら、大体白いページなんですけど、そうじゃなくて、各教科書にいろんな色を使ってあって、このページだけじゃなくてずっと見ていくと、どのページも実は白ではない色が地の色になっているんですね。開隆堂は白なので、いろんなページがありますけど、基本は白で、白いページの上に写真があったり字があったりするものが普通、本だと思っているわけなんですけど、日本文教出版はあえて地の色を白じゃない色にすることで、本のページは白だという、そういう固定観念をまず覆す作りになっている点で私は非常にいいなと思っています。 さっきのページもそうなんですけど、黒がベースになっているページが結構あって、小学校5、6年生の上巻とかでいっても、ぱっとめくってもらったら、すぐ出てくると思うんですけど、黒のページがあるんですね、幾つも。それはやっぱりすごい面白いですね。42、43であったり、あるいは52、53であったり、あるいは34、35であったり。なかなか教科書で黒いページってそんなに見ないけど、そういうページも大胆に使ってあるので、私は日本文教出版のほうが、今までの当たり前だと思っているものを変えろという意味では優れたデザインになっているんじゃないのかなというふうに思います。 もっと言えば、小学校の1、2年生の上巻の表紙が、日本文教出版はこれが非常にいいんですね。顔が出ている。このインパクトは、比べたら全然違いますよね。やっぱりこのいろんな面で見ただ目で表現して美しいと思えるのは、私は日本文教出版。美しいとか、ああすごいと思えるデザインは日本文教出版のほうかなというふうに思いました。 他にご意見ありますか。 特に他になければ、図工は以上です。
伊藤友子 選定委員長	続きまして、「道徳」の教科書の調査結果について、研究員の代表が説明します。
迫田知子 研究記録員	説明

伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果を事務局が説明します。
澤田伸一 事務局長	説明
伊藤友子 選定委員長	只今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
遠藤洋路 教育長	では、委員の皆さんのご意見はありませんか。
西山忠男 委員	前回の道徳の教科書を審査したときに、身体に障害のある人と共にという題材はどの教科書にもあるけど、知的に障害のある人と共にという題材は全くないということをお話ししたんですが、今回2社で知的障害のある方たちと共に生きるという題材が取り上げられているのは大変うれしいと思いました。 その中で、特に、光村図書の6年生の142頁のところで、ダウン症のお子さんの話が出てきて、ダウン症のお子さんは必ずどの学校にもおられますから、そういった方たちへの理解を深めるという意味で非常に素晴らしい教材だと思いました。そういう意味では、光村図書を私は高く評価をしています。 また、学研も6年生の64頁で知的障害のある方が働くという場面の話があって、これも優れていると思いました。 以上です。
遠藤洋路 教育長	他にいかがですか。 私から、最初のところの「せいきゅう書」のお話なんですけど、それぞれあって、最後のところにいろんな問いがあるんですが、東京書籍、一番最初のやつを見ると、これは4年生の84頁ですか、「考えよう」というところで、最後ですね。「たかしはお母さんからのせいきゅう書を繰り返し読んだ後、お母さんにどんな言葉をかけたでしょうか」、それから、「家族のためにどんなことをしていますか」という2つの問いかけがあります。 例えば、他の日本文教出版なんかを見ると、「お母さんはどんなことを考えながらだいすけへのせいきゅう書を書いているでしょう」「お母さんからのせいきゅう書を読んだだいすけの目がなみだでいっぱいになったのはどうしてでしょう」ということで、お母さんの立場になって考える、相手の立場になって考えるということが必要だというふうに思うんです。そういう意味で、東京書籍はたかしの立場からの問いしかない。お母さんの気持ち、お母さんの立場で、日本文教出版は、お母さんになって演じてみようというので、演じさせるところまでやるのは、そこまでやるかどうかというのは別として、お母さんの気持ち、相手の気持ちになって、相手はどんな気持ちだったのかを考えようというふうに問いかけがあるのが、日本文教出版と、それから光文書院と、それから教育出版の3つなんです。あとのところは、たかしの気持ちしか問いになっていない。さっき東京書籍はで、例えば○になっている教育出版とか、教育出版は問いが多過ぎるから○というので、いじめのところでも、日本文教出版は何かこんなにやるのは時間がかかるから○だみたいなふうに、何か多いと駄目だみたいなそういう評価基準になっていて、それって私はどうなのかなというふうに思

須藤聡 研究員代表	うんです。むしろ必要なことを書いていないような問いなのに になっていて、たくさん書いてあったらよくないという、その評価基準はなぜそうなっているのか、ちょっと説明いただいてもいいですか。 確かに教育長のおっしゃる考え方も大変よく分かります。そういう考え方もあっていいと思います。問いが多いということのメリットは、いろんな細かい必要な問いを置いていけるという良さもあるんですが、デメリットとしては、授業者がその問いにとらわれてしまう、そういう心情を追うような授業だったりとか、型にはまったような授業だったりでは、授業者自体が、子供自体があまりよく考えないんですね。 今、実は道徳の場合、多面的・多角的、また自分のことをしっかり考えさせるために、問いをできるだけ少なくして対話を重視した授業を、熊本市の市道研でも進めています。特に教材に関しては、少ないときは1つの発問で子供たちに、例えばグループで考えさせる時間を保証したりとか、個人で考えさせる時間を保証したりしながら、そして、それをみんなで対話しながら何かねらいとするものに迫っていくような時間をやはり大事にする、子供たちに考えさせる。だから、問いが多いと、どうしてもそれが少なくなってしまうというデメリットがあります。 ただ、教育長がおっしゃったように、問いが多いとやはり丁寧な授業ができます。そういうメリットはある。だから、メリット・デメリットはあるんですが、私的には、今、子供たちに教育振興計画など主体的に考えさせたいということで、子供たちの主体性を大事にしているので、できるだけ少なく発問してもらいたいというところで、市道研のほうでも指導を考えているところです。メリット・デメリットは両方あると思います。
遠藤洋路 教育長	問いが少ない結果、つまり相手の気持ちを問うという大事な問いがないことによるメリットというのは、どういうことなんでしょうか。
須藤聡 研究員代表	授業をしてみると分かるんですが、相手の気持ちを考えなくても、子供たちがグループの対話の中で、お母さんの立場とかというのを考えたりしますし、問いがなくても、道徳の場合、教師がそういう視点を別の角度の視点・切り口を与え、いわゆる揺さぶりと言いますけどね。「あなたはこう思っただろうね」とか、そういうことを主発問ではないんですが、そういう切り口で子供にふと視点を変える、物事の見方・視点を変えるような発問をしていくことは、よく授業の中であります。
遠藤洋路 教育長	大事なことが書いていないほうが高く評価されるという理由も教えてほしいんですね。
須藤聡 研究員代表	いわゆる教師の主体性、子供の主体性を尊重するということを私たちは大事に考えているので、そういう評価をさせていただいたということだと思います。
遠藤洋路 教育長	そうであれば、どの教科書でもいいということなんじゃないですか。どの教科書でもいいという意味ではないんですか。そこは教師の使い方によるんですから、別に教科書の問いが何であろうがあまり関係ないということなんではないでしょうか。その教師の進め方によって授業の問いが決ま

須藤聡 研究員代表	るのであれば、むしろ何も書いていないほうが一番高く評価されるんですか。 極論からいけば、どの教科書も非常によくできていますし、発問も考えられている。この「お母さんのせいきゅう書」を書いた先生たちも多分道徳をずっとやっている先生方が教科書の編集委員として入っていらっしゃるので、よくできていると思います。 その中で、今、熊本市で私たちが大事に思っていることと近いところということで評価させていただきました。
遠藤洋路 教育長	今のことが評価基準であれば、何も問いがないのが一番高く評価される教科書ということになりませんか。
須藤聡 研究員代表	教育長のそういうお考えがあってもいいと思いますけど、全く問いがないというのは、やはりこの教科書が子供が自分で読むときに、何かしらの問いがあったほうが子供たちは読みやすい。その問いが相手のことを考えるというところの視点も、高学年になってくるとだんだん増えてくるような気がします。これは、一つの「お母さんのせいきゅう書」ということだけじゃなくて、他の教材もいっぱいあると思いますので、そういう視点、教育長のおっしゃっている視点は、私は大事だと思っております。
遠藤洋路 教育長	私は、私の視点を主張しているのではなくて、質問をしているんです。問いが少ないほうがよいということであれば、問いが全くない教科書が一番よいと、先ほどの説明を聞いていると思える、私はそれでいいと言っているわけじゃなくて、そうになってしまいませんか、その説明ではということなんです。
須藤聡 研究員代表	そう取られたら、そうかもしれませんけど。
遠藤洋路 教育長	分かりました。では、そのような評価基準を私は採用しないので、そうではないという基準、判断させていただきたいというふうに思います。 他にご意見ありますか。
小屋松徹彦 委員	なかなかどの教科書もいいなと思えるところがあって見ているんですけど、その中でちょっと絞って見ていくと、いわゆる主体的な学びとか、深い学びにつながるような発問というんですか、そういったものはどのような形で出ているかなというようなことを見ってみました。私が見た中では、東書と光村がなかなかいいなと思っています。例えば、東書でいきますと82～84頁、こちら辺の最後の「考えよう」ですか、この質問。これはやっぱり中心の発問と、それからもう一つ、自分を振り返るような質問というか、その二つが載せてあるというのがいいなと思ったのと、それから、もう一つは40頁のほうで「考えよう」、ここも問いかけが、「あなたは思ったか」という、そういう自分を振り返ったような問いかけに対して、ここはいいなと思いました。それから、光村のほうも、最初のほうの4～14頁のほうに、「道徳が始まるよ」という部分ですね。こちら辺の内容を見てみても、ここは主体的な学びにつながるような動機づけができているのかなと思いました。

	これは、テーマとは関係ないかもしれませんが、今回取り上げていただいた「お母さんのせいきゅう書」、これは「ブラッドレーのせいきゅう書」という2つタイトルがあるわけです。中身に入っていけば、当然、テーマは一致しているんですけど、このタイトルの違いは何なんだろうなと思いながら見たんですが、例えば「ブラッドレーのせいきゅう書」というタイトルで入っていくときと、それから「お母さんのせいきゅう書」で入っていくときとでは、何か授業の仕方が違うのかなと思いましたけど、いかがでしょうか。
迫田知子 研究記録員	まず、原作は「ブラッドレーのせいきゅう書」です。「お母さんのせいきゅう書」と言ったときに、どちらのせいきゅう書をそれぞれの教科書会社が重点に置いているか、どちらのせいきゅう書を基に教材を構成しているかというところが、それぞれの各社の違いではないかなと予想されます。
遠藤洋路 教育長	今、質問は、それによって何が違うのということかと思いますが、そこはどうでしょうか。
迫田知子 研究記録員	実はよく見てみますと、教材文の内容に大きな違いはありません。ただ、各社、全く同じものではありません。例えば、終わり方もそれぞれに違いますし、それが題名によってそのように変えられているかということ、私たち研究員には分かりませんでした。
遠藤洋路 教育長	つまり、違いはあるけど、よく分からないという。
迫田知子 研究記録員	はい。
遠藤洋路 教育長	分かりました。
小屋松徹彦 委員	そうですね。そんなものかなと思いながら聞いているんですけど、「ブラッドレーのせいきゅう書」では、やっぱり最初のほうのせいきゅう書が中心に書いてあるわけですね。「お母さんのせいきゅう書」だと後のほうのせいきゅう書。でも、この中心のテーマからいくと、「お母さんのせいきゅう書」を見てどう思ったんだろうということがポイントなのかなと思うんですね。そのときに、いわゆる現場ではどのような入り方をされるのかなというところに興味があったので聞かせていただきました。
遠藤洋路 教育長	では、他にご意見ありますか。
澤栄美 委員	まず、教科書の作りとして、東京書籍がそれぞれに扉がありますよね。例えば、それぞれの項目で。例えば、いじめでいうと、4年生の37頁に「いじめ」について考えようで、次の項目が63頁に「いのち」について考えようとか、この扉があることで、子供たちが今回の勉強では何について学習するんだなというのが分かっていいかなというふうに思いました。特に、いじめについては、もともと道徳が教科化された流れということについてさっき触れられましたが、きっちり自分たちはいじめのことについて学習するんだという、そういう思いの下に学習するほうがいいのかなと思って、扉に目がいったということです。

	教育出版と日本文教出版に、いじめの輪が使われているんですよね。日本文教出版のほうは、ちょっと時間がこれだけやるには足りないというようなお話も出ていたんですけど、一番いじめで問題になるのは傍観者。傍観者がどういう動きをするかでいじめをどう解決していくかというところにつながるというふうに言われていると思うんですけど、こういった図で表してある、もちろん事例で考えていくというのもあると思うんですけど、自分がどんな立場でどうしたらよいかというのを考えたときに、傍観者である自分について深く考えるという意味では、このいじめの輪、特に私は日本文教出版のほうの構成の一番後ろのところ、94、95 頁辺りがあるところに非常に意味があるのかなと思いました。 ただ、時間をどんなふうにして取っていくかというところが難しいのかなと思いますけど、特に時間を取ってでも取り扱いたい問題かなと思いました。
遠藤洋路 教育長	他にありますか。
出川聖尚子 委員	光村図書には、「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」というのが3年生の6 頁にあるんですが、こういう話し合いをするためのそういう手だてというか、皆さんから意見が出るようなことについて書いてあったりするような学びのための、ここには「こつ」という形で書いてありますが、そういったことが書かれているというのは、私は光村しか見つけなかったのですが、他のところにもあるんでしょうか。
遠藤洋路 教育長	いかがでしょうか。
迫田知子 研究記録員	学び方を示すところは、それぞれの教科書の巻頭にいろいろ出ています。ただ、光村図書の特徴としては、「ぼかぼかの言葉を表そう」とか、「相手の気持ちをみつめるための言葉は何だろう」というような言葉、語彙を増やすというところでたくさん資料が紹介してありました。
出川聖尚子 委員	分かりました。じゃあ、他のところは、そういうのはあまりなかったですか。
迫田知子 研究記録員	ありますが、特に目立って紹介してあるのが光村図書であったということです。
遠藤洋路 教育長	では、私から。 事前の勉強会のときに質問したことでもあるんですけど、それぞれの教材の冒頭のところに、例えば、「家族のためにできること」とか、「家族のためにどんなことをしているかな」とか、ここはこういう单元なんですよということがかなり分かりやすく載っている教科書とそうでないものがある、前回の教科書、つまり今使っている教科書を選ぶ際には、最初からそういう種明かしが載っているものはよくないのではないかなというようなことで評価をマイナスにしていたかと思うんです。今回、そういう説明は特段ありませんでしたけど、今回はそこについてはどう考えられるんでしょうか。

迫田知子 研究記録員	最初の教材の横に示してある言葉は、それぞれ内容項目を表す言葉であったり、主題を表す言葉であったりします。 今回、書きぶりを、それぞれ会社が工夫されておりまして、今までは主題を書いていた教科書が、キーワードという表現で示してあるところもあります。その示す言葉が、今、教育長がおっしゃったように、もう教材を読まなくてもこれについて学ぶんだというのがはっきりと、答え合わせのように示してある教科書会社もあります。 反面、それはどういうことなんだろうというふうに子供が興味・関心をもちながら教材に入ることを意識した言葉もあります。ですので、私たちはその言葉をよく見て、その言葉の中身、質というか、その後に続く発問、一番最後に何と問うてあるかというところを見た次第です。 ですので、やっぱり答えを言ってしまうという会社のところは、ああ、こういう書かれ方をしたんだというところで、マイナスではありませんが受け止めておりまして、じゃあ、その言葉が最後にどのようにつながるかということだけ見ておりました。
遠藤洋路 教育長	前は、それを結構、この説明のときにも強調されていましたが、前回からは、今回そこまでそれは重視していないという、そういうことでしょうか。
迫田知子 研究記録員	見る観点を、今回、主体的な学びと深い学びの2点にしております。前回の採択では、深い学びと補足的・発展的な学習についての2点での教科書採択の観点をお示した次第でしたので、今回は主体というところを重視しまして、そういった言葉を精選しております。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 あと、もう一点、前回との比較でいうと、先ほどの最初の説明がまさにそうなんですけど、日本文教出版の教科書というのは、前回から非常に細かく丁寧に書いてあるというのは特徴ですよね。今、使っている教科書を選んだときには、今の熊本市の授業を見ると、そうやって細かく丁寧に書いてあるほうが全体のレベルが保てるということで、それを採用したわけなんですけど、先ほどのご説明ですと全く逆で、あまり細かいことが書いていないほうがそれぞれの授業がやりやすいんだという、これは明らかに前回とは違う基準となっていますけど、それは、そのようにこの4年間で授業が、あるいは先生方のレベルが変わったという、そういう理解でよろしいでしょうか。
迫田知子 研究記録員	そのとおりだと思います。教科化になりまして丸5年たちました。最初、教科書をどのように使うか、教科書を使ってどのように授業をしていけばいいのかという観点で私たちも授業をしておりましたが、今回、私たちが重視したのは、教科書をさらに活用する、もっともっと子供たちの心を揺さぶることのできる教材の力といいますか、そういったものを重視しましたので、学び方ではありますけど、表面的な学び方ではなく、さらに深い学びを求めて研究をしたところです。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 先ほどの研究員代表の説明では、ああ、教育長がそういうふうと思うん

澤栄美 委員	なら、それでいいんじゃないですかみたいな非常に失礼な説明でありました。今のように説明してもらえれば分かるんですが、先ほどの説明はちょっと問題があると私は思いますので、反省してください。 私からは以上です。 他にありますか。 質問なんですけど、情報モラルに関して、たまたま4年生の教科書を中心にいろいろ報告をされたので、見ていたんですが、他の学年がどうか分からないんですけど、情報モラルに関しても子供たちの中では、小学校のうちから個人のスマホを持っていたりとか、あるいは今、実際、1人1台のタブレットが配られていて、その中でちょっと問題を起こしてしまう子供さんとかもいるということ考えたときに、じゃ、学校の中でどこで、どの時間、情報モラルについてやるのかというと、例えば学校保健委員会とか、そういうときに専門家を呼んで学ぶとか、時間として確定的にやはり入っていないんじゃないかなと思うんです。そうなったときに、道徳の中で扱われていることがすごく大事なかなと思って、4年生の教科書だけでしたけど、見てみたら全部は扱っていなかったりするんですが、他の学年とかのものは扱っていたりするんですか。
遠藤洋路 教育長	いかがでしょうか。
迫田知子 研究記録員	情報モラルについては、それぞれの学年の目次に示している会社もあります。ユニットを組んである教科書会社もあります。今おっしゃったように、例えば3年生の教材ではっきりと「こういった状況は依存症である」というような紹介のされ方もあります。各社それぞれ情報モラルに関しては、全て重視してあると思います。 一つ特徴的なのが東京書籍だったかと思うんですけど、夏休みの時期に必ずその教材を置いてあります。教材の多分11教材目だったと思うのですが、それぞれ夏休みに入る前にこの教材を学ぶことで、家庭でも一緒に考えてくださいというように二次元コードをつけて動画でも示してあるのが特徴でした。 以上です。
澤栄美 委員	ありがとうございます。 何かいろんな、教科書の選定にはあまり関係ないものもあったようですが、いろんな必要なものがどこで時間を使ってやるかというのは、なかなか学校にいと難しい問題で、道徳でそれだけ扱ってあるということで安心しました。ありがとうございます。
遠藤洋路 教育長	他にご発言ありますか。よろしいですか。 では、他にご発言がなければ、道徳は以上といたします。
〔閉会〕 遠藤洋路 教育長	本日の会議日程は全て終了いたしました。これで、令和5年第6回臨時教育委員会会議を閉会いたします。